**サクラ発表要旨 　（令和元年7月5日）**

**細木高志(フラワーソサイエティー、　島根大学・生物資源科学部・名誉教授)**

1. **観賞用の主なサクラ類は、バラ科・サクラ亜属（属）・サクラ節に属する。**
2. **サクラ節の原種ヤマザクラ、オオヤマザクラ、カスミザクラ、オオシマザクラは花が大きく分子遺伝子学的（RAPD分析）的にも一群に属し、花が小さいエドヒガンやマメザクラ（キンキマメザクラ含む）の群とは分かれた。アジア東南部から渡来したカンヒザクラ（サクラ節）や中国から渡来したシナミザクラ（シナミザクラ節）は、前記の両群からさらに離れたし、総状花序を着け花弁に丸い切れ込みが無いミヤマザクラ（ミヤマザクラ節）は、もっとも遠くに離れた。**
3. **最近、ヤマザクラ系で早咲きのクマノザクラ（紀伊半島南部に分布）が新種と認められた（勝木ら、2018）。**
4. **サクラ名について、「古事記」で木花之佐久夜毘売、「日本書記」で木花咲耶姫と表記される女神由来とされる。　またサクラの開花は、暦なかった古代に「肥えあげ桜」などと呼ばれ農作業開始の目安になった。**
5. **5世紀初、履中天皇が磐余市磯池で船遊びの際、サクラの花弁が杯に舞い降りた記事が「日本書記」にある。この頃、充恭天皇も愛する人を美しいサクラに例えて歌を詠んでいる。**
6. **7世紀の飛鳥時代には、柿本人麻呂が散りゆく桜を惜しむ歌を詠み、大津京にはサクラが植えられ滋賀の花園があったと考えられるし、女性の持統天皇は吉野山に花見によく出かけている。**
7. **8世紀の奈良時代になると、「懐風藻」で長屋王、「万葉集」で山部赤人や厚見王らがサクラのテ－マの歌を詠んだし、庭園にも植えられた。しかし「万葉集」ではウメに関する歌が多く、サクラはまだ少なかった。**
8. **奈良時代には重弁品種である‘奈良八重桜’が現れ、後の平安時代に宮中で伊勢大輔がこのサクラと奈良の都の繁栄とかけて詠み、有名になった。**
9. **9-12世紀の平安時代には花といえばサクラを指し、サクラ見ての饗宴、桜会、桜狩り、花合わせが宮中や貴族の間で広まった。9世紀初めに嵯峨天皇は京都の神泉苑で日本初の公式の花見を開催した。**
10. **サクラは平安時代に国文的要素となり、紀貫之、在平業平、伊勢大輔、後白河院、小野小町、伊勢の御、大江匡房、鷹司冬平などが、サクラが花の中で一番であると詠んだり、散る花を惜しんだり、サクラの花を雪や雲に例えたり、夜桜を詠んだり様々な方面からの観賞がみられる。貴族の屋敷の庭園には多くのサクラが植えられ桜町（藤原成範、桜町中納言など）とよばれた。**
11. **平安時代末から鎌倉時代に、枝垂桜（エドヒガン）が寺院に現れ糸桜の名で観賞され多くの歌に詠まれた。**
12. **平安時代に、日本最古の庭園書である「作庭記」に東にサクラ、西にモミジを植えるべしとの記事がある。**
13. **平安時代前期、御所紫宸殿にウメに代わりサクラが植えられ以後‘左近桜’（ヤマザクラ）と呼ばれた。**
14. **12世紀末の鎌倉時代から14世紀からの室町時代には、離宮や貴族の邸宅にサクラが多く植えられ、普賢象’、‘泰山府君’、‘桐ケ谷’などの八重で花が大きい‘サトザクラが現れた。また歴史上有名な人物ゆかりの‘西行桜’や‘石戸の樺桜’などが出た。**
15. **鎌倉時代の藤原定家の「明月記」（12 -13世紀）には接ぎ木や挿し木の繁殖技術に関する記事がある。**
16. **13世紀頃に超重弁の菊桜（梅護寺数珠掛桜）が新潟県で生まれた。菊桜は富山県や石川県など北陸に多い。**
17. **鎌倉時代の美術品に関して、阿弥陀二十五菩薩来迎図にサクラが描かれた。**
18. **16世紀の桃山時代には、豊臣秀吉がサクラを移植して醍醐の花見の大行事を開いた。美術品では長谷川久蔵の櫻図襖絵が有名である。**
19. **17-19世紀の江戸時代になると、花見が庶民に広がり多数のサクラの名所ができた。京都では嵐山、御室、平野神社など、江戸では上野、浅草、墨田川堤、日暮里、飛鳥山、御殿山、小金井、吉原・新吉原などであった。**
20. **上記の名所には、東の桜川（茨木県）や西の吉野（奈良県）からサクラが移植された。また大名の下屋敷や庭園の戸山荘、浴恩園、六義園などにも多数のサクラが植えられた。**
21. **江戸時代にはサクラの解説書が出て、那波活所の「桜譜」、水野元勝の「花壇綱目」、伊藤伊兵衛の「花壇地錦抄」には多くのサトザクラ品種が載せられた。また貝原益軒の「花譜」には接ぎ木の親和性、さらに「立華正道集」にはサクラの生け花が記された。この他に、松岡玄達の「怡顔斎桜品」、松平定信の「浴恩春秋両園桜花譜」、屋代弘賢の「古今要覧稿」、市橋星峯の「花譜」、坂本浩然の「長者ヶ丸桜譜」や堀良山の「じゃく譜」には数十から二百数十の品種が掲載された。**
22. **冬咲き(春にも咲く)の‘フユザクラ’(冬桜、コバザクラ/小葉桜)（マメザクラ×ヤマザクラまたはサトザクラ）、‘シキザクラ’（四季桜）（マメザクラ×エドヒガン）や‘ジュウガツザクラ（十月桜）（コヒガンの園芸種、つまりマメザクラ×エドヒガン）、‘フダンザクラ’（不断桜）（ヤマザクラ×オオシマザクラ）は、江戸期から栽培が始まった。**
23. **江戸時代末に、成長が早く、早咲きで一斉開花する ‘ソメイヨシノ’（エドヒガン×オオシマザクラ）が駒込の染井村で生まれ、現在もっとも多く栽培される品種になった。**
24. **19世紀後半からの明治時代には、大名屋敷などからサトザクラ品種が東京の荒川堤防に集められ、船津静作らにより維持・増殖され、有名な「江北五色桜」として明治末には花見で賑わった。これらのサクラは明治末にアメリカにも送られ、ポトマック川河畔に植えられサクラ公園になっている。**
25. **明治以降は、三好学や竹中　要など多数のサクラ研究者や育種家の努力により同定と品種改良がなされ、現在300品種以上あるサクラは全国の植物園、公園、庭園、堤防や並木道に栽植されて、早咲きの‘ソメイヨシノ’から遅咲きのサトザクラまで春を代表する花として観賞されている。**

**おわりに**

**サクラに関する原種・品種の種類や、文化史・文学史を含む品種の歴史については既に多数の著書に書かれていているが、とくに宮澤文吾博士の「花木園芸」を読むとサクラに関する文献や文学作品が詳細に挙げられていて、サクラの文化を系統だて理解するのに大いに有益であった。つまりサクラのように日本人に幅広い支持を得て愛されてきた植物では、理系的な分類・品種の研究のみならず、歴史・文化を含む文系的（植物・園芸民俗学的）な研究も重要と思われた。今後は、理系と文系の研究者が交流して、日本人によく親しまれてきた植物について合同で調査研究が進むことを期待したい。**

**引用・参考文献**

**原 寛　1950. さくら。園芸大辞典　第2巻（石井勇義編）誠文堂新光社.東京.pp914-934.**

**原 寛・林弥栄　1970. 最新園芸大辞典5巻. サクラ. 誠文堂新光社.東京pp.2403-2434.**

**細木高志・小野郁子・佐藤亜子・平沢祐二・浅尾俊樹・太田勝巳. 1998. サクラ品種の形態による分類について. 園学雑.67(別2): 358.**

**細木高志・小竹七々恵・浅尾俊樹. 1999. サクラ品種のRAPD分析. 園学雑. 68(別2).:369.**

**細木高志　2010.　サクラの研究 [１]－サクラの原種と栽培品種および観賞の歴史（そ**

**の１）（その2）. 農業および園芸 第85巻（9号、10号）：945-957、 1045-1054.**

**細木高志　2010. サクラの研究〔2〕―サクラの原種と栽培品種の形態および遺伝子分析による分類. 農業および園芸 第85巻(11号):1110-1123.**

**細木高志　2011. サクラの原種および品種の形態による品種分類の考察.　園学研10(別1):210.**

**磯野直秀 2009. 資料別・草木名初見リスト. Hiyoshi Review of Natural Science（慶応大学）、No45:69-94.**

**岩佐亮二.　1988. サクラ類の園芸文化史. 園芸植物大辞典2巻.小学館. 東京. pp346-349.**

**井筒清次　2007. 桜の雑学辞典. 日本実業辞事典　東京.pp1-253.**

**川崎哲也　1993. 日本の桜.　山と渓谷社.東京.pp1-282.**

**勝木俊雄 2001. 日本のサクラ－フィ－ルドベスト図鑑. 学習研究社.東京. pp1-256.**

**北村四郎・村田源. 1979. サクラ属（Prunus L.）原色日本植物図鑑木本編（Ⅱ）.**

**保育社.東京.pp1-19.**

**北村四郎. サクラと日本美術.1988. 園芸植物大辞典2巻.小学館. 東京.p349.**

**小林　義雄　1975. サクラの系統と品種　サクラ. 主要花木(高木編).　花木編-Ⅰ　朝日**

**園芸園芸百科14　朝日新聞社.東京.pp.30-39.**

**Lee S.andJ.Wen. 2001. A phylogenetic analysis of Prunus and the Amygdaloideae (Roseaceae)using ITS sequences of nuclear ribosomal DNA. Amer.Jour.Bot. 88(1):150-160.**

**松田　修.　1975 日本の桜の歴史と民族. サクラ. 主要花木(高木編).　花木編-Ⅰ　朝日園芸園芸百科14　朝日新聞社.東京.pp.24-28.**

**宮澤文吾　1975. 花木園芸（復刻版）サクラ.八坂書房.東京.　pp338-372.**

**長村祐次・麓次郎・妻鹿加年雄　1988. サクラ属.　園芸植物大辞典2巻.小学館.**

**東京.pp332-346.**

**小笠原　亮　1978. サクラの栽培小史.　サクラ（NHK趣味の園芸）.NHK 出版　東京.pp.121-125.**

**大場秀章・川崎哲也・田中秀明　2007. 新日本の桜. 山と渓谷社.東京.pp1-263.**

**サクラの品種に関する研究調査編集委員会.1996.日本のサクラの種・品種マニュアル.（財）日本花の会.　東京. pp1-448.**

**鈴木　洋・江藤宏昌・山田拓・藤田真弓・小笠原宣好　2006. オウトウとサクラ‘ソメイヨシノ’との種間交雑（育種・遺伝）。園学研5:343-349.**

**竹中 要　1962. サクラの研究（第一報）ソメイヨシノの起源　Bot.Mag.Tokyo 75:273-28**

**塚本洋太郎1967.サトザクラ.原色園芸植物図鑑Vol.5花木編.保育社.東京.pp113-116.**

**八坂安守　サクラと日本文化. 1988. 園芸植物大辞典2巻.小学館. 東京.p.349-350.**

**山田孝雄　1990. 櫻児　櫻史. 講談社学術文庫. 東京. p.28-29.**